

キヤノンの「EOS SYSTEM」が誕生 35 周年

キヤノンのレンズ交換式カメラ EOS（イオス）と、交換レンズ RF/EF レンズをはじめとする各種アクセサリーで構成する「EOS SYSTEM」が、2022年3月に誕生 35 周年を迎えます。



EOS R SYSTEM

「EOS SYSTEM」は世界初の完全電子マウント方式を採用した新世代の AF 一眼レフカメラとして、1987年3月に初号機「EOS 650」が交換レンズの「EF レンズ^{※1}」とともに発売され、2022年3月に誕生 35 周年を迎えます。EOS とは「Electro Optical System」の略称で、ギリシャ神話の「曙の女神」の名でもあります。

1987年の誕生以降、「EOS SYSTEM」は「快速・快適」をキーコンセプトに、プロ向けの最高級機「EOS-1」（1989年）や、小型・軽量を実現した「EOS Kiss」（1993年）など革新的な技術を搭載した製品を展開し、幅広いユーザーから支持を得てきました。

2000年に発売した「EOS D30」以降はデジタル一眼レフカメラの普及が本格化し、「快速・快適・高画質」を新たなキーコンセプトに、プロのニーズを満たす高画質と高速レスポンスを実現した「EOS-1D」（2001年）や、ユーザーの裾野を大きく広げた「EOS Kiss Digital」（2003年）、フル HD 動画撮影機能を搭載した「EOS 5D Mark II」（2008年）など時代を切り開く製品を送り出してきました。また、2012年には EOS の映像技術を B to B の分野にまで広げた「CINEMA EOS SYSTEM」を立ち上げ、映像制作業界への参入を果たしました。

さらに2018年には、理想のレンズ設計から生まれた「RF レンズ」の魅力を、最大限発揮するためのイメージングシステム「EOS R SYSTEM」が誕生しました。2020年には世界初^{※2}の 8K 動画撮影機能を搭載した「EOS R5」を、2021年には視線入力 AF を搭載した「EOS R3」をラインアップに加えるとともに、VR 映像撮影システム「EOS VR SYSTEM」を立ち上げるなど、ユーザーの多様なニーズに対応しています。

静止画から動画や VR 映像の分野まで撮影領域を拡大し、映像表現の可能性を広げてきた「EOS SYSTEM」は、現在では EOS シリーズ 21 機種^{※3}と RF/EF レンズシリーズ 104 種類^{※4}の幅広いラインアップを形成しています。また、長きにわたるユーザーからの支持により、2003年から 18 年間連続でレンズ交換式デジタルカメラの世界シェア No.1^{※5}を獲得しています。

キヤノンは、これからも光学技術を中心に映像技術に磨きをかけ、「EOS SYSTEM」をさらに強化・拡充し、写真・映像文化のさらなる発展に貢献していきます。

※1 「EF35-70mm F3.5-4.5」「EF35-105mm F3.5-4.5」「EF50mm F1.8」の3本を同時に発売。

※2 2020年7月8日時点で発売済みのレンズ交換式デジタルカメラにおいて。

※3 映像制作用のデジタルシネマカメラ5機種を含む。2022年2月24日時点。

※4 映像制作用の EF シネマレンズ (EF マウント/PL マウント) 30 種類、エクステンダー4 種類を含む。2022年2月24日時点。

※5 台数シェアにおいて。(キヤノン調べ)